**「私から始まる平和統一」**

**エッセイ　　　　第五聯合　　南福岡支部　　原　幹雄**

**平和、それは、一つになるところにある。争い、それは、分断するところにある。誰もが争いを願っていない。そして、誰もが平和を願っている。**

**私の心と体の平和、無病息災。夫婦、家族の平和、家内安全。国の平和、国家安寧。世界の平和。**

**「平和統一」の言葉は、漢字四文字で、簡単だが、実現するのは難しい。今も絶え間なく、世界のどこかで、紛争や闘争が起こっている。これらの紛争や闘争をやめさせられることができ、平和な世界を実現することが、果たして、私が生きている間にできるのだろうか。**

**「私から始まる平和統一」をテーマに色々と考えてみた。テーマからみても、どのようにしたら私の中から平和統一を始めることができるのだろうか？平和統一とは一体何だろうか？心が平安になること？体が健康であること？いつも感謝して、幸せに暮らすこと？答えはなかなか見つからない。人それぞれの考え、性格、感性、文化、習慣などが違っていて、答えが各々違うからだ。**

**今の私の中の平和統一の答えは、心と体が一つになっていること。もっと具体的に言うなれば、本心の願う通り、良心の願う通りに行動して、生活して、いつも喜んで感謝して過ごすことである。それが今の私自身の答えであり、そのように過ごして暮らせるようになることを目指しながら、日々、努力している。**

**しかし、今の私は、正直、心と体が葛藤して、不平不満を言ったり、口では正当な事を言いながら、なかなか実行に移せなかったり、時々、夫婦、家族で口喧嘩になったり、平和統一には、まだまだ程遠いのが現実である。私個人でも難しく、夫婦関係、血の繋がっている家族関係でさえも難しい。地域社会などに広がれば、更に難しくなるのは容易に理解できる。言うまでもなく、国家同士の平和統一、世界の平和統一など夢物語のように思える。しかし、誰もが、本心では、平和統一を願っている。お互い理解し合って、和解し合って、仲良く、平和に過ごしたいと皆が願っている。**

**大学生の頃、休憩時間に図書館の近くの噴水をずっと眺めていた。噴水の水が、晴天の青空に向かいながら、勢いよく吹き出している。**

**噴水は、ある一定の所まで高く上がるとその後はバラバラに落ちる。当たり前の光景である。しかし、それを眺めながら、ふと気付かされた。何か共通の目標を持って向かっているときには一つになり、目標を失うとバラバラになる。つまり、皆が、共通の目標にむかって、共通に願っているものを持っているならば、一つになるのではないだろうか。そして、共通の目標、願っていることを失った時には、バラバラになるのではないだろうか。**

**皆が共通に思って、願っていること。誰もが、皆持っているもの。その一つが、本心だと思う。その本心の声にどれだけ耳を傾けるのか。そして、本心のままに実行し、実践するのか。更に、もっと掘り下げるなら、いかに本心の主体の声に耳を傾け、実行し、実現いくのか。**

**もし、良心、本心の主体が存在し、それが神様であるならば、神様の声に耳を傾け、その願いに答えるように努力し、実践するならば、全てが統一され、幸せで平和な個人、家庭、国家、世界が実現されると思う。**

**まず初めに、私から本心の声を聞いて、実践していける様に、日々努力していきたいと思っている。そして、本心、平和統一の主体である神様を中心とした全人類、全世界に広がっていき、国境なき、平和統一の世界が実現することを願っている。**